

三木市に100万円寄付

高砂の建設会社に感謝状

土地利用計画策定に活用

三木市は13日、企業版ふるさと納税で同市に100万円を寄付した総合建設会社「ソネック」（高砂市）に感謝状を贈呈した。寄付金は、都市計画マスタープランや現在進められている市街化調整区域の見直しなどに活用され、三木市はより良い土地利用計画の策定を目指す。

同社は1944年の創業

で、高砂市を拠点に主に県内と関西圏、中部圏で事業

を展開している。従業員は約170人で、有休社有地を活用したトマト栽培事業にも取り組み、地域社会貢献を目標に掲げる。

企業版ふるさと納税制度の利用は同社にとって初。三木市在住の従業員がいることから、同市域での工事も多いことから決めたといい、3月16日に寄付した。

贈呈式では仲田一彦市長が感謝を述べ、同社の山本貴弘社長は「地域のインフラをつくるわれわれにとって、社会貢献できるのは非常に大事。安心安全で明るいまちづくりのために、わずかでも役立ててもらえたらありがたい」と願った。また、同社の大内豊範取締役は三木市在住で「自分が勤める会社が、ふるさとのために寄付してくれるのは誇らしいこと」と笑みを浮かべた。



仲田一彦市長(右)から感謝状を受け取るソネックの山本貴弘社長
三木市役所

(大山伸一郎)